

精神外科の隆盛と衰微

藤倉 一郎

一九三五年ポルトガル・リスボン大学神経科教授で脳血管造影の研究で有名な Egas Moniz⁽¹⁾は頑固な脳神経症状を脳手術によって治療する目的で、精神障害は前頭葉内の神経細胞に異常なシナプス結合繊維群を生ずるために起こるとの説のもとに、両側前部前頭葉白質切截術 (Bilateral prefrontal leucotomy) を考案し、不安、苦悶の強い退行期鬱病や不安神経症などに劇的効果があると報告した。

その後この手術はアメリカに導入され、一九三六年ジョージ・ワシントン大学神経科教授 Freeman⁽²⁾により追試され、Freeman は改良術式として前部前頭葉ロボトミー (Prefrontal lobotomy) を発表し、世界各国にロボトミーのブームを巻き起こしたのであった。

Freeman のこの方法は Standard lobotomy といわれ、小骨孔を頭蓋骨に開け、前頭部外側面からロボトームを挿入し、手探りで白質内の神経繊維を切る方法である。

一九四九年、Moniz は偉大な業績の創始者としてノーベル賞を授与されている。

本邦では、一九三九年新潟大学中田教授⁽³⁾により、ロベクトミーが、つづいて一九四二年前頭葉ロボトミーが行われた。第二次世界大戦後、アメリカからの影響で前頭葉ロボトミーを中心とする精神外科はまたたく間に全国に普及した。

日本精神神経学会では一九四〇年の中田の報告に始まって、一九五〇年第四七回総会で宿題報告がなされ、精神外科治療について活発な議論がなされた。^(四)

精神外科の対象は、精神分裂症が多く、その機転とプロセスが解明されていないにもかかわらず、的確な根本的治療がない、暗中摸索の状態であり、精神病院に収容されて、回復の見込みのない症例に最終手段として行われ、患者管理に役立っていた。

しかし、一九五〇年代の中頃から向神経薬の登場と前後して、精神外科は急速に衰退した。実際手術例を検討すると無効例、再発例、死亡例などがみられるだけでなく、術後の感情の浅薄化、自発性喪失、抑制欠如など好ましくない人格変化が現れる場合もあり、術式や手術適応の選択が問題となってきた。^(五、六)

図一はある精神病院のロボットミーの症例数を年次毎にグラフにしたものであるが、一九五三年頃をピークにして、手術症例は次第に減り、一九六〇年にはほとんどなくなっている。千葉大中川による発表論文の検討によると、発表された論文の年次変化もこれとほぼ同じ傾向をみることができると。中川は『医学中央雑誌』を中心に雑誌に発表された、一九三九年から一九七一年までの論文六五四のうち、癲癇の痙攣、脳性小児麻痺、不随意運動、頭痛を対象としたロボットミーを除く五三四例を年次毎に数えると、一九五〇年から一九五三年をピークにしており、手術数が業績として評価されていることを物語っている。なお中川はこの五三四の論文を内容によって分類しているが、総説、適応、手技、合併症、予後などのほかに、関連研究として採取された脳組織を用いての実験、心理研究、脳波、刺激実験にわけると、実験を主体としたこの関連研究は一六九もあり、手術そのものに、いかに実験的要素が含まれていたかが考えられる。

薬物療法の目ざましい発展にともない、一九七〇年、アメリカでは精神外科に反対する動きがでてきて、やがてこれが日本にも波及してきた。そして精神外科に便乗した脳生検などの実験が告発されたのをきっかけに、精神外科に関する議論は高まり、一九七四年、第七一回精神神経学会総会^(九、一〇)では、精神外科シンポジウムがひらかれて、精神外科廃絶の

決議がなされるにいたった。
 一方、一九七〇年、第二回国際精神外科学会がデンマークのコペンハーゲンでおこなわれ、従来のロボトミーから大脳辺縁系を標的部位として定位脳手術など、新しい術式の導入がおこなわれた。しかし精神外科そのものが、衰退の一途をたどった。

以上、精神外科が華々しく脚光をあびて登場したにもかかわらず、短期間に消えていったのは何故であるかを考えて

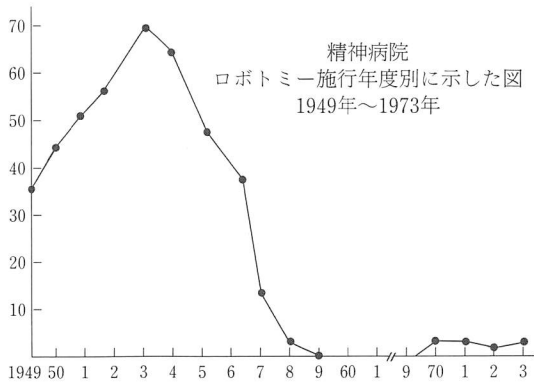


図 1

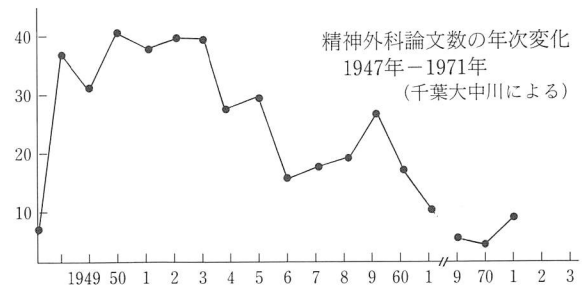


図 2

表 1

精神外科論文の分類 (雑誌報告のみ)

総説	35
手術術式	74
適応	45
治験例	128
長期観察	33
合併症	32
病理報告	18
関連研究	169
解剖・病理	11
心理検査	29
生化学的検査	27
生理学的検査	86
その他の研究・実験	16

計

534

みたい。

1、ロボトミーの根拠が、明白でないのに、これに便乗して器質的にはなんら病変を認めない患者の前頭葉に不可逆的な損傷をくわえるにすぎない手術をおこなった。

2、患者を救うためというより、患者管理のために手術がおこなわれた。

3、手術に際し、患者にとってはなんら益のない実験が多々おこなわれた。

外科手術はあくまでも、患者自身のためのものでなければならぬことの教訓として、真摯に受け止めるべきである。

(1) Egas Moniz, Prefrontal leucotomy in the treatment of mental disorder. *Am. J. Psychiat.* 93: 1379-1385, 1937

(11) Walter Freeman, Frontal lobotomy in early schizophrenia.

Long follow-up in 415 cases.

Brit. J. Psychiat. 30: 119, 621-624, 1971

(三) 中田瑞穂「癲癇の外科療法について」『精神経誌』四四、五七五—六六一頁、一九四〇

(四) 広瀬貞雄「精神分裂病に対するロボトミーの評価」『精神経誌』六〇、一三四—一三五頁、一九五八

(五) 林佐武郎ほか「国立下総療養所におけるロボトミーとその遠隔成績について」『医療』一五、八〇—八五頁、一九六一

(六) 越賀一雄「ロボトミーの経験とその批判」『精神経誌』五五、九一—一〇五頁、一九五三

(七) 野瀬清水「松山精神病院におけるロボトミー施行の実態」『精神経誌』七七、五五九—五六六頁、一九七五（シンポジウム・精神外科）

ム・精神外科）

(八) 中川利男「精神外科とは何であったか」『精神医療』三、四—一三頁、一九七四

(九) 第七一回日本精神神経学会総会・シンポジウム(B)「精神外科」『精神経誌』七七、五四七—五九七頁、一九七五

- (一〇) 「精神外科を否定する決議」『精神経誌』七七、五四一頁、一九七五
- (二) 浦田重治郎、清水順三郎ほか「長期経過した精神外科被術者の追跡調査」『精神経誌』八四、四三九―四六四頁、一九八二
- (三) 広瀬貞雄「第二回国際精神外科会議に出席して」『精神医学』一三、一〇九九―一一〇頁、一九七一

(北本市・藤倉病院)

History of Psychosurgery

by Ichiro FUJIKURA

In 1935, Egas Moniz inaugurated a surgical procedure in the treatment of certain psychoses. By interrupting some of the connections between the prefrontal lobes and other parts of the brain, some benefits were brought to the psychotic individuals. He reported 20 cases of these procedure. The treatment of chronic psychotic patients by prefrontal leucotomy or lobotomy, was spread throughout the world by Walter Freeman. In Japan the psychosurgical operation was performed in 1939 by Nakada using prefrontal lobotomy. In April 1959, the 15th General Assembly of the Japan General Congress was held in Tokyo and the subject "Functional Brain Surgery" was taken up at one of the plenary sessions.

In the early years, numerous operations were performed upon chronic disturbed psychotic patients who had not been relieved by various other somatic treatments in mental hospitals.

Following the development of psychopharmacotherapy since the middle part of the 1950's marked decline in the number of psychosurgical operations was observed.

Now this surgery has been interrupted because of the continued trouble faced by psychosurgery in Japan.

Why did such a popularity and then a decline of psychosurgery occur in this short term?